

ピントのズレ 的ハズレ

(1月のごあいさつ)

平成27年1月1日(木)

1年というものは、生活をしていると長く、振り返ると短い感じがします。それは人が、過去を振り返ると対数目盛のようになり、将来を思うと指数目盛のように感じるからではないでしょうか。

財政再建はどのように進めるべきであるか？

それは、A(増税)、B(経済活性化)、C(歳出削減)の三つがあると思われる。しかし、政府の行っていることは、順序がおかしいか、ピントがズレている。

増税と消費の活性化のピント

暮れの夕方、乗ったタクシーのドライバーとの会話である。

「忘年会などはどうですか。去年より景気がいいようですが」

『いや景気は良くないね。特に自分たちには……』「何故？ 街は賑やかな感じですが……」

『消費税でさっぱりだね。4月から消費税がupしてこたえるね。今まで1日の売上が30,000円あったとすると、4月から3%の900円が水揚げから差引かれる、同じように働いても4月からは1,000円位収入が減った感じがする。スーパーで買物をしてもついつい弱気になる。』「やはり、収入が上らないことには財布が開かない。」

『スーパーの従業員も給料が上がらない。みんな買物にビクビクしている。』「なるほど……」

『給料や売上をアップしてから、消費をさせてそれでも不足なら、強気に消費税を上げるべきだったね。政府はそんなことが解らないのかね。ハハハハハ……』「……」

歳出改革のピント

江戸後期の改革者、上杉鷹山は、“入るを図って出ざるを制す”と言ったといわれる。“入る”については、取るだけが能ではなく、根本を増やす工夫が必要である。まして“出ざる”についてはその姿勢と節度がカギである。社会保障費は当然必要であるが、高齢による能力低下を過度に補うような歳出では若者はやっつけられない。

通貨政策のピント

通貨が経済活動に浸透してこそ効用が発揮される。必要以上の札束で頬を引っ叩いても経済は活性化しない。

日本の外交のピント

少し気が小さいのでないか。これが中国や韓国との摩擦を拡大しているのではないか。失礼と意地悪は外交感覚的ハズレと言わざるを得ない。

ピントのズレということは、順序が正しくなく、的にハズレ、効果が悪いということである。